

未開発漁場へ進出計画

新大和堆、竹島の調査

縣が漁獲二・五倍増を目ざし

県では未開発漁場「新大和堆」に進出を計画、調査費百万円を計上したが七月上旬から約一ヵ月間の予定でいよいよ調査に着手することになり、県水産部では十七日県水試と最後の打合せを行った。

新大和堆は隠岐島の東北西に広がる広範囲の陸タテで鳥取県をはじめ長崎県も進出をねらい、県では他県に先がけて同漁場を調査、開拓し優先権を獲得しようというわけ。

また同時に講和とともに除かれ「竹島」にもアシカの棲息状態

など調査を行う予定でいずれも県水試島根丸が調査にあたる。なお新大和堆が完全に開拓された場合、県下の年間水揚高千八百万貫二十一億円が一躍四千万貫五十億円に上昇するものと同部ではみている。

巡視船を繰り出し

領海内の漁船保護

【舞鶴】舞鶴第八管区海上保安本部は管内漁船が領海外で捕獲されるのを防ぐため東経百二十五度線に巡視船を出して警戒することに

なり十七日次の方針を決定した。

「同任務につくのは舞鶴海上保安本部の「おき」（四七〇ト）「くずりゅう」（二七〇ト）境保安部「へくら」（四七〇ト）「のしろ」（二七〇ト）浜田保安部「ながら」（二七〇ト）の最新型巡視船五隻のうち三隻、出動日数は九十一昼夜、応急資材として冷蔵庫食品庫など約二百万円を用意する」なおこの方針は本庁で第七管区のものにらみあわせて再検討され出勤時期は本庁が指示する。